Ⅲ－４．　ＩＣＴ活用関連資料

Ⅲ-4 ＶＲ導入の目的と効果

効果①⑨
時間と空間の広がりを体験させることにより、
点を面に変える

①観光資源としての活用
・上質な観光情報の提供
・プロモーション運用
⇒イベント連動や、スポットでレンタルコンテンツ
（他地域や海外のコンテンツ）を上演する等

効果①②
話題性による集客促進
マスメディア活用による知名度UP

⑨観光支援ソリューションとしての展開
・VR連動での散策支援ツール展開
・他のICT活用ツールとの連動
・ガイドボランティアの活動に活用

観光

②シティセールス支援ツールとして活用
・市民向けの上演
・来客向けの上演
・訪問先での上演
・VRコンテンツの相互利用、PR活用

景観

まなび

⑧景観整備として活用
・歴史的景観を保全するための
シミュレーション活用

③交流事業での活用
・各種交流事業での上演
・セミナーでの上演・活用
⇒レンタルコンテンツ利用も可能

効果⑦⑧
様々な形に加工・流用することで
メディア制作のコスト削減が可能

観光交流拠点（本館）内にVRシアターを設置
見せる、さわらせる、体験させる

今ある価値の見える化

効果③④
誇りや愛着を生む→帰属意識の喚起

⑦素材データとして活用
・高精細なデジタルデータにより、
デジタルサイネージや Web、
パンフレット等に展開。

④市内学校教育での活用
・市内小中学生に対する上演
⇒社会科見学、歴史授業など
⇒地域学習教材として活用

歴史的文化遺産の保存・活用

⑥デジタルアーカイブとしての機能
・プロモーション以外での活用

効果⑤⑥
歴史文化の基礎資料として保存
いつでも拡張・更新が可能
（例）長谷川家、三井家が所有する
松阪市所縁の歴史資料等を
バーチャルで再現し、松阪市の古にふれる

⑤教育・研究機関との連携
・学会や有識者の会合での活用

Ⅲ-4 ＶＲの活用（案）

●活用①【地域利用】歴史資料、映像教材として活用

松坂城下町をバーチャル散策

かつての松坂城下町の景観をＶＲで再現し、鑑賞体験をしてもらうことで実際の散策への興味を喚起する。
また、市民における映像教材や歴史資料として活用し、教育の場でまちなみの景観を保全する意味の理解促進や、松阪の歴史を調べる資料として生涯学習などにも活用する。

＜参考画像＞
左：熊本市役所からの現在の眺望
右：江戸時代中頃の眺望の再現

（VR作品
「熊本城 不落の名城を読み解く」より）

●活用②【誘客利用】誘客・集客ツールとして活用

散策コースをＶＲで事前体験

既存の散策マップである「豪商の道」、「武将の道」、「国学の道」にあるそれぞれの偉人ごとのまちあるきコースの景観や施設について、当時の姿をＶＲで再現し、さも当時にタイムスリップしてまちあるきをしているような体感を味わってもらうことで、実際の散策への興味を喚起する。
また、今も残る史跡や老舗のお店などについては、ＶＲの中であわせもって紹介することで、松阪の歴史が感じられるとともに、散策の際の目印にもなる。

＜参考コース＞
「松阪偉人マップ」NPO法人Mブリッジ

●活用③【地域PR利用】来訪者への観光情報提供ツールとして活用

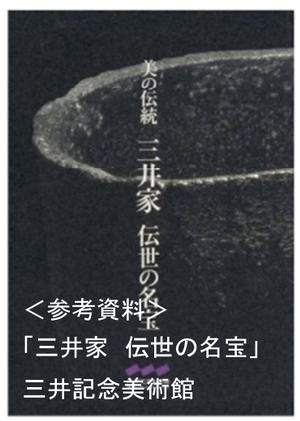
松阪を紹介する解説ツールとしての活用

例えば小中高生が参加できるジュニア解説員や、定年退職後の高齢者の知識と経験を活用するシニア解説員制度を創設し、VRシアターで観光客向けに特別解説イベントを行うなど、市民の方々による松阪の解説ツールとしての活用も期待できる。

●活用④【可視化利用】目に見えない時間、重要な歴史・文化遺産などをヴァーチャルに再現

現存する石垣、旧城下町、長谷川家・三井家の文化遺産をバーチャルに再現し、リアルに目に見えるものとして体感

往時の城下町、松阪とゆかりの深い長谷川家・三井家が所有する日本でも有数の貴重な文化遺産をＶＲで再現することで、市民や観光客の方々が“松阪の本物”に加え、さらに松阪の奥深さにふれるツールとしての活用も期待できる。



＜参考資料＞
「三井家　伝世の名宝」
三井記念美術館

Ⅲ-4 ＶＲ活用事例

熊本城 不落の名城を読み解く	2011 2012 2013 2014 2015	熊本城下の歴史体験施設城彩苑湧々座にてオート上映にて公開。 スタッフによるマニュアル上演の開始。 新規シナリオを追加。 スタッフによる芝居、演舞などに活用。 埋蔵文化財調査など、調査研究成果発表の場として活用。

＜VRシアター＞

VR作品「熊本城　不落の名城を読み解く」

建築監修：平井聖（昭和女子大学特任教授）、
北野隆（熊本大学名誉教授）、
伊東龍一（熊本大学教授）
シナリオ監修：吉丸良治（永青文庫常務理事）
協力：熊本市、本妙寺、永青文庫、熊本県立美術館
製作：熊本城観光交流サービス株式会社
制作・著作：凸版印刷株式会社

■活用①　熊本城下をバーチャル散策（観光振興）

■活用②　地域伝統芸能の背景（市民発表～地域連携）

■活用③　歴史時代絵巻の背景（写真：西南戦争）

■活用④　熊本城調査研究成果発表

ocha navi

お茶の水まちの案内所

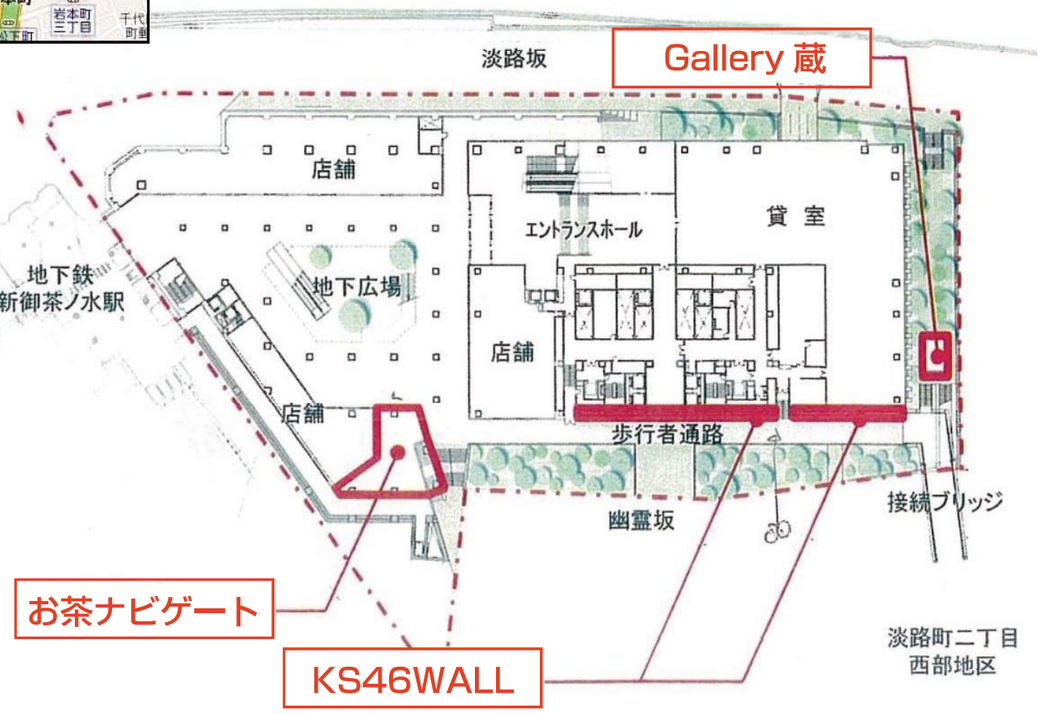
お茶ナビゲート

株式会社トータルメディア開発研究所

施設概要

1F

B1F



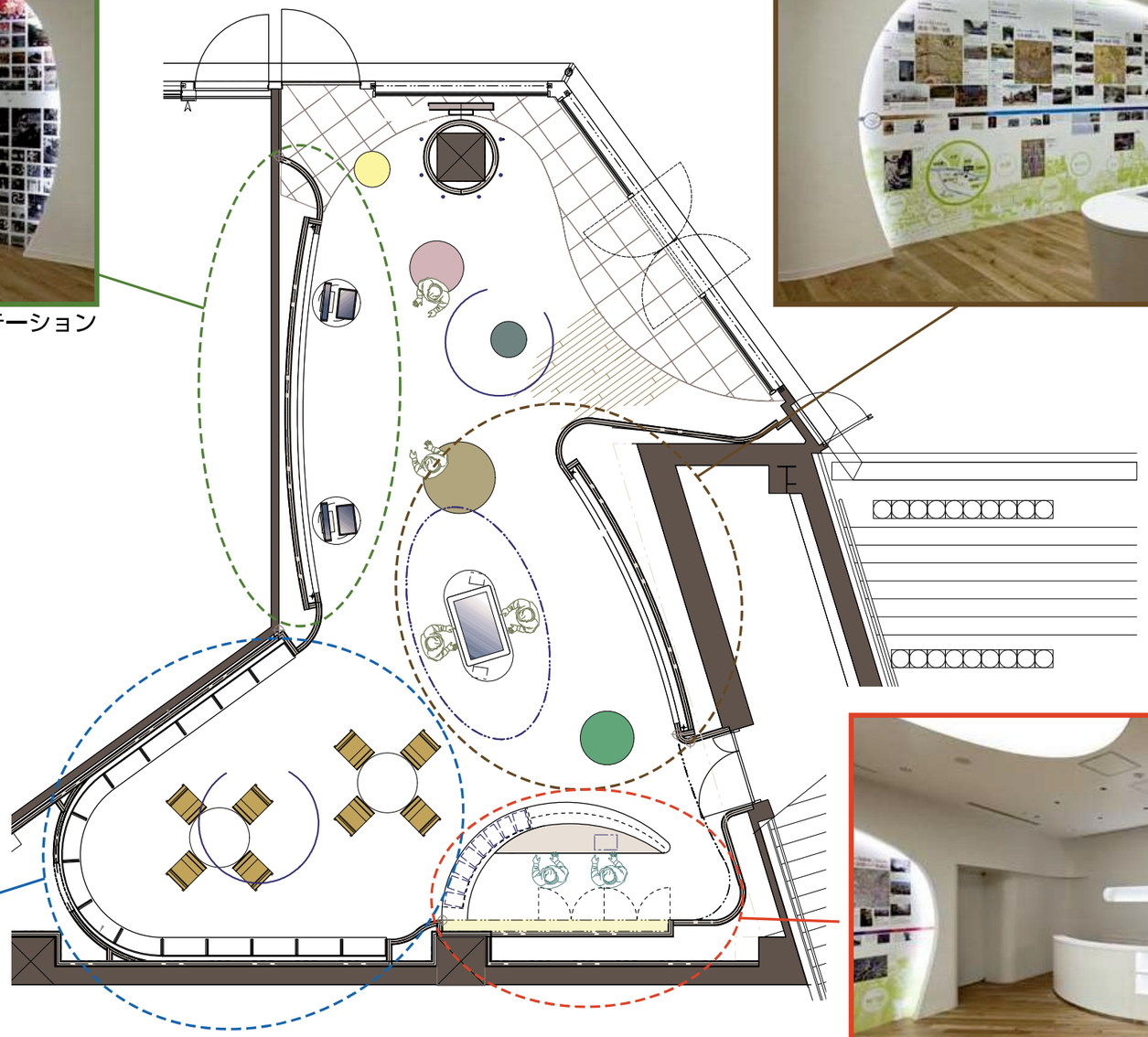
B1F

お茶ナビゲート全体

お茶ナビゲート

まち歩きステーション

歴史ギャラリー



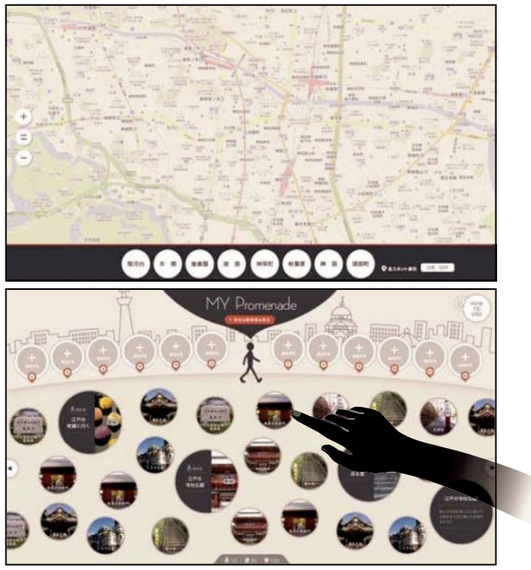
地域文化イベントスペース

受付カウンター

デフォルト画面

スポット検索パターンA

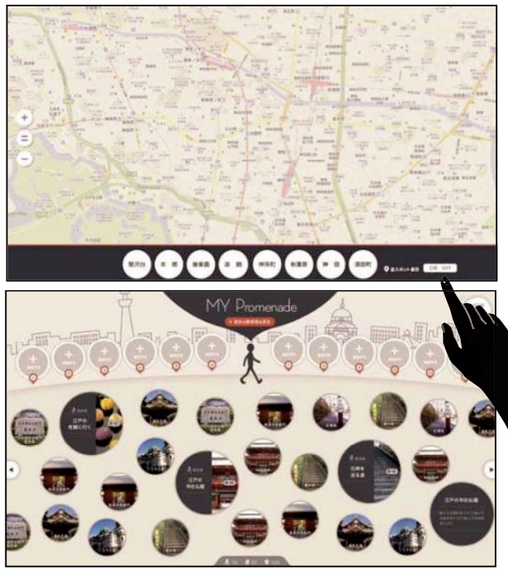
① 好きなスポットアイコンをタッチ



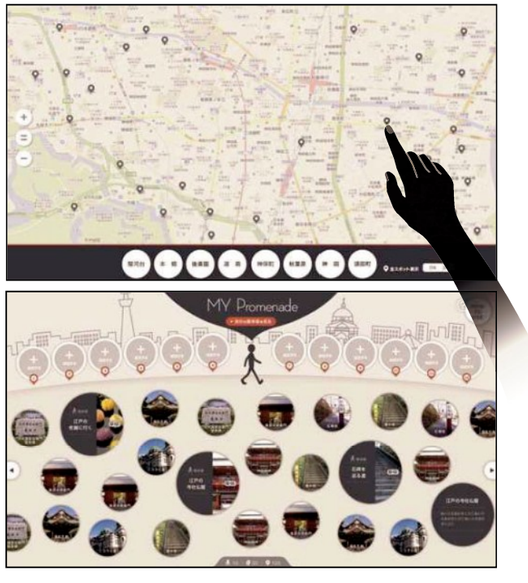
② スポット位置・詳細情報の表示

スポット検索パターンB

① 全スポット表示に切り替え



②全スポットの中から好きなポイントをタッチ



③ スポット位置・詳細情報の表示

スポット検索パターンC　テーマ連想検索

① スポット詳細画面から、好きなテーマアイコンをタッチ

② スポットアイコンがテーマに沿って再構成される

繰り返し

テーマ例

「文人ゆかりの地」
「寺社・仏閣・教会」
「江戸の文化」
「昭和ノスタルジー」
「明治・大正レトロ」
「近現代建築」
「学生文化」
「喫茶店・甘味処」
「職人の技」
「女子力ＵＰ」

● テーマを複数設け、それを辿ることで、自分の興味に沿ったスポットを連想的に見つけていくことが出来る。

スポット検索パターンD　モデルルート参照

① 気になるモデルルートアイコンをタッチ

② ルートに合わせて自動でスポットが追加される

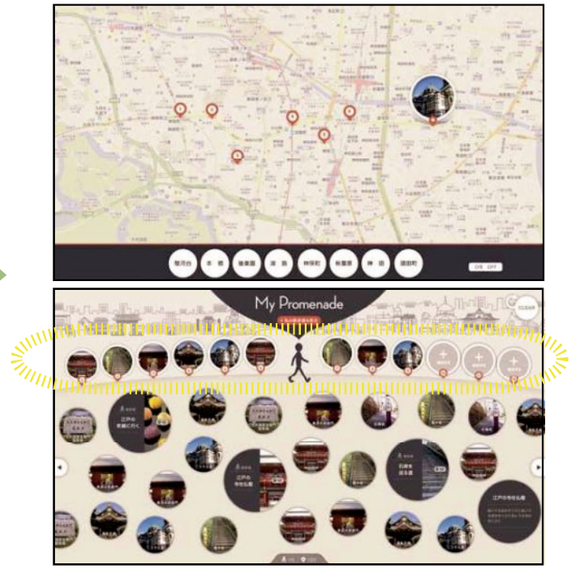
モデルルート例

「文豪ゆかりの地をめぐる」
「江戸から続く文化に触れる」
「秋葉原の今昔を感じる」
「神保町でアートを発見」
「明治～昭和建築探訪」
「最高学府東大に潜入」
「明大・日大の街に潜入」
「おひとり様ぶらり散歩」

ＭＹ散歩道作成パターンＡ

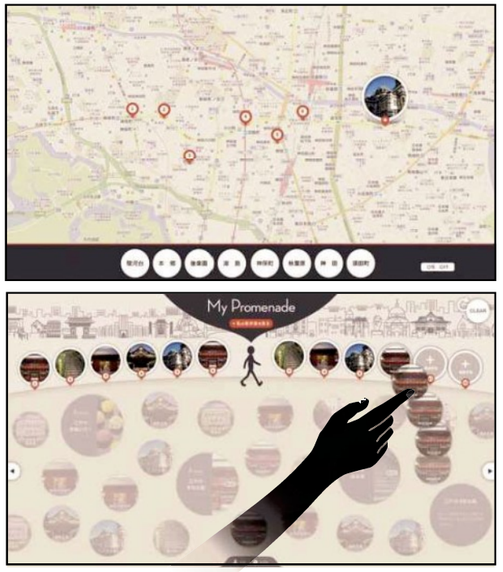
① スポット詳細画面から「私の散歩道に追加」をタッチ

② 選択したスポットが私の散歩道にストックされる



ＭＹ散歩道作成パターンＢ

① 行きたいスポットのアイコンをドラッグして直接散歩道にストック



ＭＹ散歩道の印刷

①「私の散歩道を見る」をタッチ

② 選択したスポットの一覧が表示、順番を編集してプリントボタンを押す

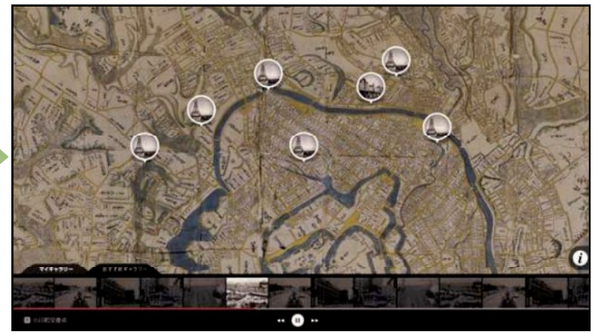
③ ＭＹ散歩道がプリントアウトして持ち歩ける！

裏面はスポットが示されたMAPが印刷される

個別古写真の閲覧

初期画面 ／ 42 インチ大型タッチパネル

① 古写真アイコンがマッピングされた古地図が表示される



② 気になる写真をタッチすると詳細画面が現れる

③ 古写真自体を左右にフリックすると同時代の異なる写真が閲覧できる

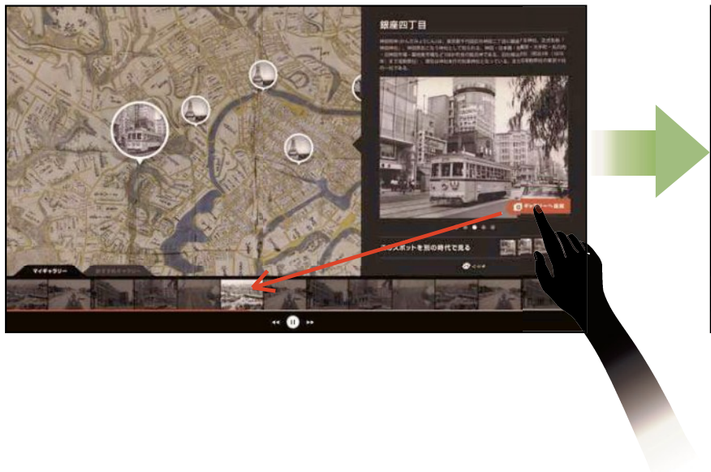
④ サムネイル画像をタッチすると同じスポットの異なる時代の古写真にジャンプ

③ 古写真が切り替わると同時に、古地図も切り替わる

古写真ギャラリーの閲覧

ＭＹギャラリー

①「ギャラリーに追加」をタッチしてＭＹギャラリーに追加



② 再生ボタンでギャラリーの古写真のスライドが流れる

おすすめギャラリー

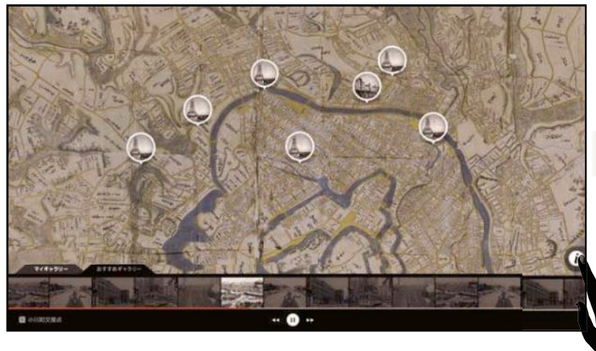
③ その古写真に関係のあるおすすめギャラリーのスライドも流せる

ギャラリーテーマ例

「空から街を見てみよう」
「写真でめぐる名所観光」
「神田祭のむかし」
「学生文化あれこれ」
「市電・都電・鉄道ヒストリー」
「ここ何処だかわかりますか？」
「お茶ナビ美術館」
「昔の名建築めぐり」

古地図だけの閲覧

① インフォボタンをタッチ

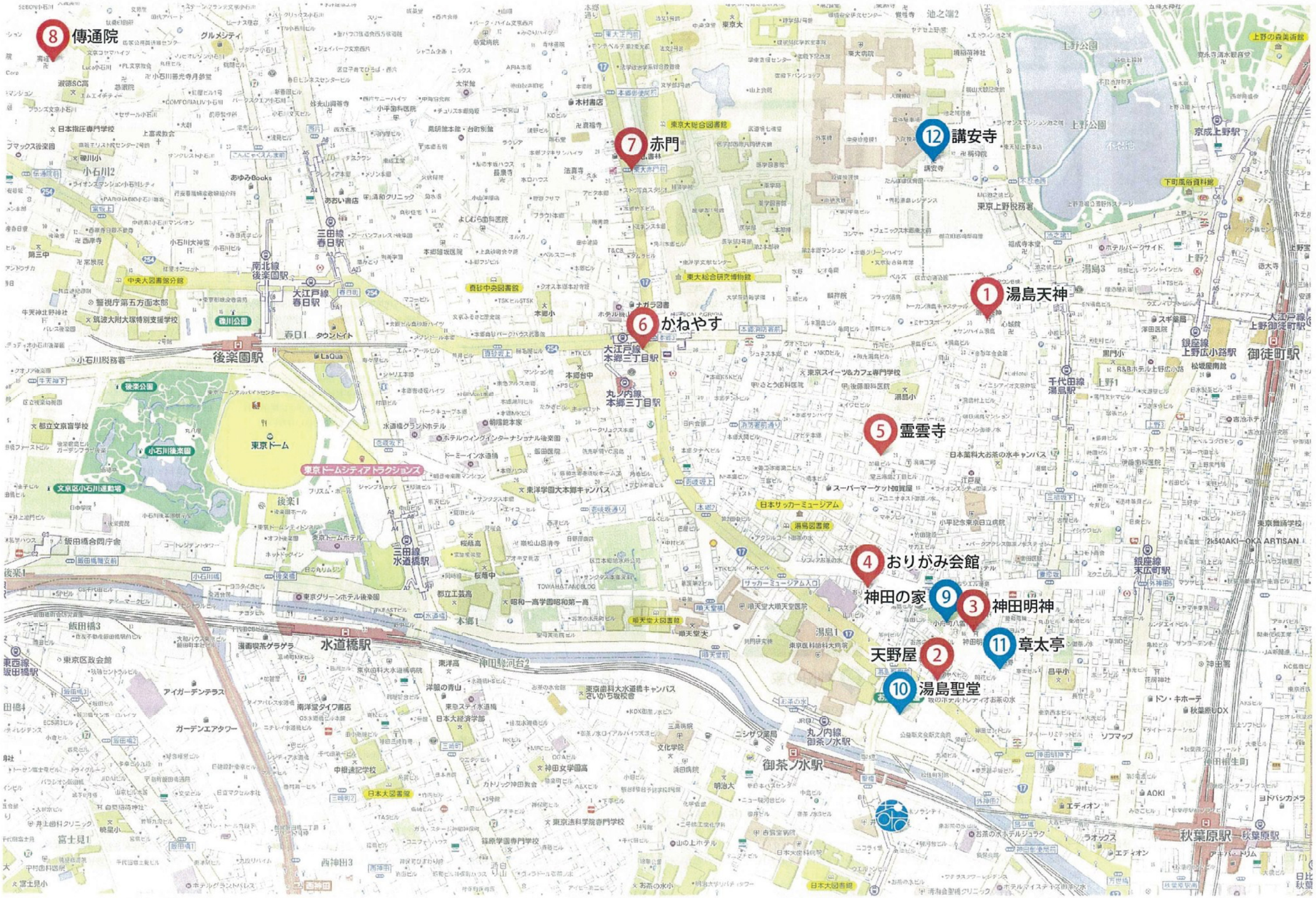


② アイコンのマッピングされていない古地図とその詳細情報が見られる

※古地図は拡大して細部の閲覧が可能

KS46WALL

Gallery 蔵


8 傳通院
7 赤門
12 講安寺
1 湯島天神
6 かねやす
5 霊雲寺
4 おりがみ会館
9 神田の家
3 神田明神
11 章太亭
2 天野屋
10 湯島聖堂
後楽園駅
水道橋駅
御茶ノ水駅
秋葉原駅
御徒町駅
上野駅
東京ドーム
東京ドームシティアトラクションズ
東京大学
東京大総合図書館
東京上野税務署
上野公園
不忍池
日本サッカーミュージアム
日本薬科大お茶の水キャンパス
東洋学園大本郷キャンパス
東京スイーツ&カフェ専門学校
東京区政会館
東京法科学院専門学校
日本大図書館
東京歯科大水道橋キャンパス

① 湯島天神

「湯島天神」は、泉鏡花の小説『婦系図』の舞台にもなった梅の名所。創建は、社伝によれば雄略天皇2年(458)。菅原道真公を勧請した正平10年(1355)を正式な創建とする説もある。太田道灌によって改築され、江戸時代には数度の火災に見舞われたが、そのつど復旧され、明治18年に改築した社殿は老朽化のため平成7年、後世に残る総檜造りで造営された。ご祭神は学問の神様、菅原道真公。毎年2月、3月は受験生と花見客でごった返す。"湯島の白梅"ともいわれ、清楚な白梅400本の中にところどころ紅がさす風情が美しい。

03−3836−0753
文京区湯島3−30−1

② 天野屋

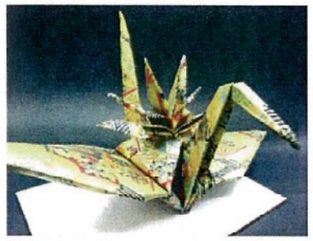
神田明神の鳥居脇にある老舗の甘味処「天野屋」。弘化2年(1846)の創業当時は醸造元だったこともあり、現在も地下6mにある土室(ムロ)で糀(こうじ)を発酵させ、江戸時代から続く明神甘酒や芝崎納豆、久方味噌、江戸味噌、田楽味噌などを自家製造する。名物の甘酒は砂糖も甘味料も一切使わない。米のほのかな甘みとうまみが舌と喉をさらりと流れていく。温かい甘酒、冷やし甘酒ほか、6月〜10月10日の期間限定で氷甘酒(甘酒のかき氷)も楽しめる。店内には店主自慢の"鉄道模型コレクション"がディスプレイされている。

03−3251−7911
千代田区外神田2−18−15

③ 神田明神

1300年近い歴史をもつ「神田明神」は、江戸三大祭りの1つ、神田祭を行う神社として知られる。徳川幕府が尊崇する神社となり、江戸城の表鬼門の場所にあたる現在地に遷座。将軍から庶民にいたる江戸のすべてを守護する「江戸総鎮守」だった。現在も神田や秋葉原、築地魚河岸市場など108の町々の総氏神様である。神田祭は、家康公の戦勝を祈祷すると勝利し、天下統一を果たしたことから縁起のよい祭礼として始まった。神田明神資料館では神田明神と神田祭の歴史や江戸東京文化に関する絵巻、古文書、浮世絵などを所蔵・展示する。

03−3254−0753
千代田区外神田2−16−2



④ おりがみ会館

外国人観光客にも人気の高い、千変万化な"ORIGAMI"の魅力。日本伝統のペーパークラフト「折り紙」の面白さ、芸術性を再発見したい。創業安政5年(1859)の染紙店を母体とする「お茶の水 おりがみ会館」は、明治初年に日本で初めて「教育折り紙」を製品化した折り紙界の中心的施設。"日本"を感じる季節替わりの折り紙展示や、当館の原点である和紙の染め場も見学可(要予約)。折り紙の実演もあり、100種類以上のキットも販売。「ディズニーランドよりも楽しかった！」との感想も寄せられる。

03−3811−4025
文京区湯島1−7−14

⑤ 霊雲寺

真言宗霊雲寺派の総本山「霊雲寺」は元禄4年(1691)、5代将軍綱吉の命により徳川幕府の永代祈願所として、江戸城から見て鬼門にあたる北東の方角に創建された。開基は浄厳律師。幕閣の帰依を受け、湯島に拝領した3500坪の地に伽藍(がらん)が整い、学寮もあり、土塀をめぐらした名刹(めいさつ)だった。関東大震災と第二次大戦で焼失し、現在の本堂は昭和51年の再建である。境内に入ると、その本堂の大きさに圧倒される。本堂まで上る階段もなめてはいけない…。

文京区湯島2−21−6

⑥ かねやす

本郷三丁目交差点の角に位置する「かねやす」。「本郷もかねやすまでは江戸の内」と詠んだ川柳も残る。民家の構造もこの辺りを境に異なり、"ココまでが江戸、この先は郊外"の境目にあった。かねやすは、江戸時代には口中医師(歯科医)の兼康祐悦(かねやすゆうえつ)が「乳香散」という名の歯磨き粉を売って繁盛した。その老舗が、現在はなんと洋品店を扱うファンシーショップに変化を遂げて営業を続けている。定休日には大きく「かねやす」と書かれたシャッターが下り、今でも「ああここが江戸の境目か。」とすぐにわかる。

03−3811−0407
文京区本郷2−40−11

⑦ 赤門

赤門といえば、東京大学本郷キャンパスの象徴的な建物の一つ。(正門ではないので注意。)一度はくぐってみたい門だ。この赤門は、文政10年(1827)、前田斉泰が将軍徳川家斉の第二十一女、溶姫を迎え入れた際に作られた。「薬医門」という形式を踏襲するもので、将軍家から夫人を迎える場合の慣例で朱塗りとされた。現在、重要文化財に指定されているが、実は戦前は国宝であった。また明治36年(1903)、医科大学の校舎建設のため門を15m程本郷通りに向かって移動されている。

文京区本郷7−3−1

⑧ 傳通院

「傳通院(でんづういん)」は芝の増上寺、上野の寛永寺と並ぶ「江戸の三霊山」の1つ。もとは応永22年(1415)、浄土宗第七祖了誉が無量山寿経寺の名で小石川に開山した草庵だった。慶長7年(1602)、家康公の生母、於大の方を葬り、堂宇を建て菩提寺としたことから、法名にちなみ傳通院と呼ばれる。徳川家の外護の下、諸堂伽藍が整えられ、浄土宗の関東十八檀林(僧の学問修行所)の1つとして1000人の学僧が修行した寺院でもある。将軍家の帰依も厚く、千姫をはじめ徳川家ゆかりの墓が多数。昭和63年に新本堂を建立。

03−3814−3701
文京区小石川3−14−6

⑨ 神田の家

「神田の家」は、江戸開府の頃より神田鎌倉町で材木商を営んだ遠藤家が、震災後に建てた店舗併用住宅。空襲と、昭和30年代後半の高度経済成長期のビル建設ラッシュをくぐり抜けた木造建築だ。特徴は"江戸黒"と呼ばれる黒漆喰で塗られた外観、商いをした土間の復元、材木商であるために入手できた銘木を豊富に使った室内、そして随所に見られる職人の技。各月8の付く日に内覧会を実施。四季のしつらいの変化も楽しめる。千代田区指定有形文化財。内覧日にはオリジナルの「平将門キュービー」も販売、お守りとして是非手に入れよう。

03−3255−3565
千代田区外神田2−16

⑩ 湯島聖堂

徳川5代将軍綱吉は儒学の振興を図るため、元禄3年(1690)、湯島の地に聖堂を創建。政治顧問だった林羅山が上野忍が岡(現・上野公園)に建てた廟殿と林家の家塾を移設。これが「湯島聖堂」の始まり。寛政9年(1797)、幕府直轄学校として「昌平坂学問所(通称「昌平校」)」を開設。明治維新後は新政府の所管となり、東京国立博物館、科学博物館、国会図書館などの創立を導く。その後、師範学校、女子師範学校が開設されるなど、湯島聖堂は維新の一大変革においても学問所としての伝統を受け継ぎ、近代教育発祥の地となった。

03−3251−4606
文京区湯島1−4−25

⑪ 章太亭

外神田2丁目にある神田明神下交差点付近は、江戸末期に武芸教練所があったことで"神田講武所"と呼ばれ、花街としても栄えたエリア。神田花街の芸者は"講武所芸者"とも呼ばれ、明治期から戦前、戦後の最盛期には、現在の神田明神下から秋葉原駅までの一帯で夜の繁栄をみせた。そんなゆかりの地、神田明神の男坂を下りた所にある小料理屋「章太亭」は、かつて明神下で人気の芸者だった女将が腕をふるう。季節料理と、かつおだしの「おでん」に定評がある。あったかいおでんと女将に癒されに行こう。

03−3251−9034
千代田区外神田2−8−7

⑫ 講安寺

「講安寺」は、慶長11年(1606)に湯島天神下に創建、元和2年(1616)に現在地に移転した。社寺建築でありながら、外壁が漆喰で何度も塗り込められた土蔵造りの本堂(区指定文化財)は、火事に悩まされた江戸の人たちの防火対策の知恵である。東京大学の赤門(御守殿門)は、加賀藩第13代藩主前田斉泰に輿入れした11代将軍徳川家斉の息女、溶姫を迎えるために建てられたものとして有名だが、溶姫の生母であるお美代の方は、明治5年に77歳で没するまで講安寺に居住した。春には境内の見事なしだれ桜が楽しめる。

03−3827−7703
文京区湯島4−12−13

選んだスポット　つながるスポット